

## Unit 5 BE の構文ネットワーク

英語の「BE 動詞」という用語はたいていの人にとってなじみのあるものだと思います。I'm Ken. だとかThis is a robot. といった表現に使われる動詞です。あえてBE動詞という呼び方をするのは理由があります。

それは、他の動詞を使った表現で疑問文を作ったり、否定文にしたりする際に、助動詞DO を使うからです。I have a car. に対してDo you have a car? だとかI don't have a car. といった具合にです。

ところがBE 動詞は、例えばThis is a robot. だとIs this a robot?やThis isn't a robot. のようにis を主語の前に置いたり、is にnot を付けたりすることのできる動詞です。だから、BE 動詞と一般動詞という分け方をあえてしているのです。

さて、BE は以下のような構文で使います。

・ BE + 名詞	John is a news reporter.	ジョンは新聞記者だ。
・ BE + 形容詞	I am very happy.	私はとても幸せだ。
・ BE + 副詞	I am home.	ただいま。
・ BEのみ	I think, therefore I am.	我思う、ゆえに我あり。
・ BE+ DOING	She is running in the rain.	彼女は雨の中を走っている。
・ BE + DONE	The windows were all broken.	窓が全部割れた。
・ BE + TO DO	You are to be punished.	あなたは罰せられるべきだ。

こうした構文の可能性をスッキリと理解するためには、BE の本質的な意味( コア) をしっかりと押さえておく必要があります。BE はその名詞形が being であるように「**存在**」の意味がそのコアです。

このコアが一番わかりやすいのが、I'm home. だとかI'm here. あるいは I'm in the room. といった表現です。つまり、「ある場所に私がいる」というのがそれらの表現の内容です。A が在るのは場所とは限りません。「場所」から「状態」に関心を移せば、I'm very happy. といった表現になります。そして、God is. (神は存在する) だとかI think, therefore I am. (我思う、ゆえに我あり) だと、「存在している」という意味だけが強調されます。

場所から状態にシフトすれば、状態のありようとして「連続的な未完の状態」を考えることができます。それが、I'm running in the rain. といった文です。さらに、「完結した状態」にシフトさせれば、The windows were all broken. のような表現が可能となります。John is a news reporter. の場合は、ジョンは新聞記者という範疇の1メンバーとしてある (be a member of the category NEWS REPORTER) ということです。